

(件名) (仮称) 日置市および鹿児島市における風力発電事業に関する陳情書

(陳情の要旨)

この度、鹿児島市、薩摩川内市の山の尾根（八重山山麓）をまたぐ巨大風力発電機（ローター直径120m、最大出力4,300kw）9基の建設計画が、日本風力エネルギー㈱によって進められており、今年1月に環境影響評価準備書が出され、5月2日には鹿児島市長の意見が県知事に提出されました。

一方、企業説明によるとこの地に計画した理由として①良い風が吹く、②特別な規制がない公園、③大型の風力発電機を運ぶには道路の整備が整っている、④登山道を登る人は少ない、というものでした。

八重山の風車建設予定地から約1.5キロ圏内に40軒を超える人家があります。八重山は甲突川や神之川の源流域の一つです。この源流域から下流にかけて多くの人が住み、また、農業などが営まれています。また、絶滅危惧種のクマタカや、県の準絶滅危惧種の蝶キリシマミドリシジミの生息が確認されています。

そこで、今回は、標記のような状況と問題点を提起し、下記の事項を陳情いたします。

1. 風力発電機9基の建設予定地から1km圏内に、鹿児島市側だけでも約30軒あります。環境省の依頼で行われた長島町における久留米大学の調査研究で、騒音は、距離が近いこと（1,500m）によって、健康影響（睡眠障害）のリスクファクターになる可能性が高いと発表されています。さらに風力発電機9基をそれぞれ1km圏内の円で囲むと最高4基が重なる地区も発生します。共鳴による睡眠障害、低周波音、超低周波音による健康影響の懸念が図面上でも危惧されます。
2. 近年、線状降水帯などが発生して豪雨が増えています。計画では、建設地や管理道路、土捨て場の造成など土地の改変面積が約31ヘクタール（平川動物園と同じ広さ位）です。このため広範囲で森林が伐採されます。山の保水力が低下し、山の麓では土石流などの土砂災害、甲突川や神之川の流域では氾濫・浸水などの河川災害が懸念されます。
3. 計画されている風力発電機9基の地域周辺には、クマタカ（「種の保存法」指定種、絶滅危惧種Ⅰ類）の営巣があるとされています。森林生態系の頂点にある猛禽類です。今年の1月に梨木野地域周辺に建ったばかりの風況塔付近では、ツガイが確認され、日常的に飛来しているということが明らかになりました。また、県が準絶滅危惧種に指定している蝶キリシマミドリシジミは4号基周辺などの狭い地域で生息が確認されています。追加の調査の必要性を感じます。

記

1. 1基あたり最大出力が4,300kwという巨大な風力発電機が設置される計画です。ぜひ、本計画に対する周辺住民の健康不安への問題を現地視察して調査してください。
2. 鹿児島県内の既存風力発電施設周辺での騒音、睡眠障害の実態を調査するよう知事へ求めてください。
3. 建設予定地は、県内でも雨量の多い場所です。過去には8・6水害などで、甲突川上流の郡山で氾濫浸水など大きな被害が出ました。ぜひ、一度、建設予定地や源流域を視察調査してください。
4. 今回、巨大な風車を建設することで、山の保水力が低下し、山の麓では土石流などの土砂災害、甲突川や神之川流域では氾濫・浸水などの河川災害が懸念されます。今回の計画に関する県の許認可などの手続きの際、このような懸念を考慮し、慎重に対応するように知事へ求めてください。
5. クマタカや蝶キリシマミドリシジミなど絶滅が危惧される動植物の再調査を専門家の立ち会いのもと行い環境影響評価をやり直すよう求めてください。

(添付書類省略)